

港湾最前線 arbor

Ports-
gateway
to the world

躍進いちじるしい 世界のみなとたち

世界中の人やモノ、情報が集まるみなとは、いわば「国の玄関口」と言えるでしょう。そのため、世界にはそれぞれの国の特色を生かした、魅力的なみなとが数多くあります。

こうした世界のみなとには、充実した港湾設備が整っていますが、なかでも現在の海上輸送の主役であるコンテナターミナルは、各国の物流拠点として活躍しています。

また、近年は韓国をはじめとするアジア諸国のみなとがコンテナ取扱量を年々増加させており、今や世界の物流拠点として注目されています。ここ数年のアジア圏の経済発展にあわせ、みなともどんどん成長してきています。

世界のみなとに負けないよう、わが国でもより魅力的なみなとづくりを進める必要があります。



写真提供/釜山コンテナ埠頭運営公社

釜山港

韓国の最南端に位置し、古くから朝鮮半島の入口として発展してきたのが釜山港です。水深15m級の大型バースをはじめ、近年はコンテナターミナルの整備に力を入れています。また、コンテナ取扱量はこの10年で急激に伸びており、99年のコンテナ取扱量では世界第4位と、わが国の横浜港・神戸港は大きく引き離されてしまいました。

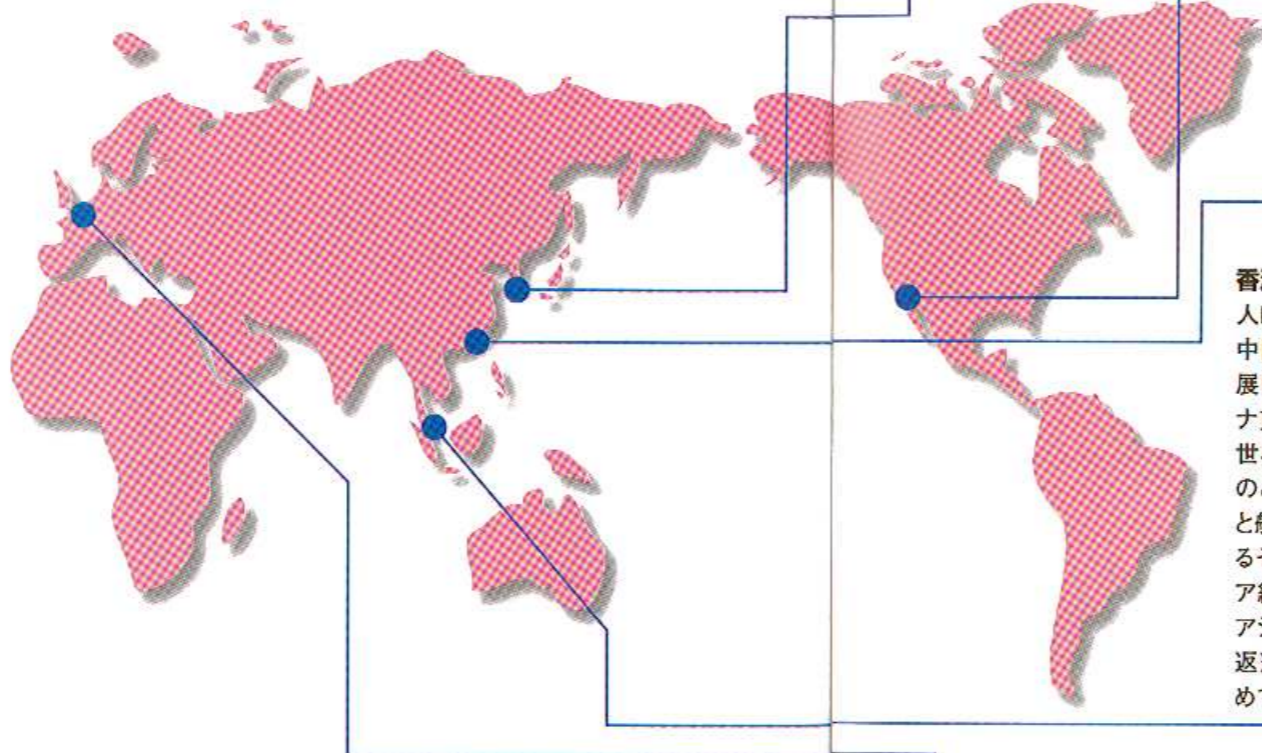


ロングビーチ港

コンテナ取扱量では世界第6位(99年)のアメリカ最大の貿易港です。近年は中国、韓国、台湾など、東アジア諸国との取り引きが大幅に増えているのが特徴で、お隣のロサンゼルス港と並び、太平洋地域の玄関口として活躍しています。現在、輸出入を合わせると日本が最大の取り引き相手国であり、わが国にとっても重要なみなとのひとつと言えます。



写真提供/ロングビーチ港湾局



香港

人口12億人以上という大国・中国への玄関口として発展してきた香港は、コンテナ貨物の取扱量(99年)が世界一という、アジア最大のみなとです。次から次へと船が到着し、活気あふれるその姿は、躍進するアジア経済の象徴とも言えます。アジアの物流の拠点として、返還後も世界の注目を集めています。



写真提供/香港観光協会



ロッテルダム港

ヨーロッパの玄関口として中世から発展してきたロッテルダム港は、99年のコンテナ取扱量がヨーロッパ第1位、世界第5位の巨大なみなとです。そのコンテナ取扱量も、わが国の東京港と横浜港をあわせた量よりさらに多くのコンテナを取扱っています。



シンガポール港

太平洋航路の要所に位置するシンガポール港は、世界の海上輸送の中継基地として活躍しています。とくにコンテナ貨物の積み替えに便利のため、さまざまな国の船が集まってきます。その結果、コンテナ取扱量は世界第2位(99年)となっています。



写真提供/オランダ政府観光局



写真提供/PSA CORPORATION